

第27回

三遠南信 サミット

2019 in 南信州



テーマ

新たなビジョンの始動

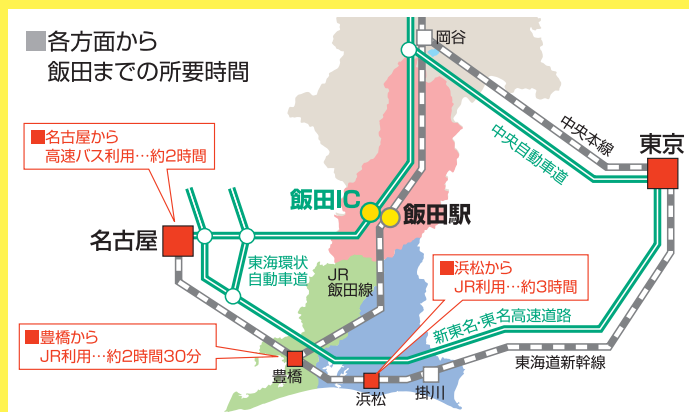
～将来に向けて今すべきこと～

プログラム・資料集

令和元年

10月30日水

会場 飯田市鼎文化センター
飯田市鼎体育館
シルクホテル



主催：三遠南信地域連携ビジョン推進会議 (SENA)
後援：農林水産省・経済産業省・国土交通省

共催：三遠南信地域経済開発協議会
協力：名古屋大学減災連携研究センター



三遠南信地域（愛知県の東三河地域、静岡県の遠州地域、長野県の南信州地域）を一体的に振興するため、地域住民、大学・研究機関、経済界、行政が一堂に会し、議論を深めてきた三遠南信サミットは、平成5年度から遠州、東三河、南信州の3地域で順に毎年度開催し、今回第27回を迎えます。

サミット テーマ **新たなビジョンの始動** ～将来に向けて今すべきこと～

13:00 ~ 15:00
全体会

会場 ◆ 飯田市県文化センター ホール

パネルディスカッション 司会／西村容子

テーマ ◆ 三遠南信地域とスーパー・メガリージョン構想

コーディネーター ◆ 三遠南信地域連携ビジョン推進会議 副会長（飯田市長）／牧野光朗

パネリスト ◆ 国土審議会会長・公益財団法人名古屋まちづくり公社上席顧問・名古屋都市センター長／奥野信宏

◆ 公益財団法人浜松・浜名湖ツーリズムビューロー 理事・事業本部長／前田 忍

◆ 三遠南信地域連携ビジョン推進会議 会長（浜松市長）／鈴木康友

◆ 三遠南信地域連携ビジョン推進会議 副会長（豊橋商工会議所会頭）／神野吾郎 （敬称略・順不同）

15:15 ~ 17:35
**「住」(防災)を
主題とした
連携検討会**

プロジェクションマッピング等を利用した情報共有

今後30年間に発生する確率が70~80%と言われている南海トラフ地震の発生による三遠南信地域の被害想定等について、名古屋大学減災連携研究センター長 福和伸夫教授の解説により、巨大地図とプロジェクションマッピングを使用して情報共有を行う。

各検討グループにおいて議論

「道」グループ

会場 ◆ 飯田市県体育館アリーナ

テーマ ◆ 「道路などの社会基盤への被害とその備え」に向けて

コーディネーター ◆ 国立大学法人 名古屋大学 特任教授／新井伸夫

「住」グループ

会場 ◆ 飯田市県体育館アリーナ

テーマ ◆ 「地域住民の安全安心の確保」に向けて

コーディネーター ◆ 国立大学法人 名古屋大学 准教授／都築充雄

「技」グループ

会場 ◆ 飯田市県文化センター 3階 学習展示室

テーマ ◆ 「災害時における産業活動の継続及び地域連携」に向けて

コーディネーター ◆ 学校法人 愛知大学 教授／戸田敏行

「風土・人」グループ

会場 ◆ 飯田市県体育館 3階 卓球室

テーマ ◆ 「災害に強い地域づくり、地域活動」に向けて

コーディネーター ◆ 学校法人 法政大学 教授／高柳俊男

18:00 ~ 18:30
報告会

会場 ◆ 飯田市県文化センター ホール

各検討グループの報告、サミット宣言

19:15 ~ 20:30
交流会

会場 ◆ シルクホテル 2階 錦繡

参加費 6,000円/人

三遠南信地域住民セッション

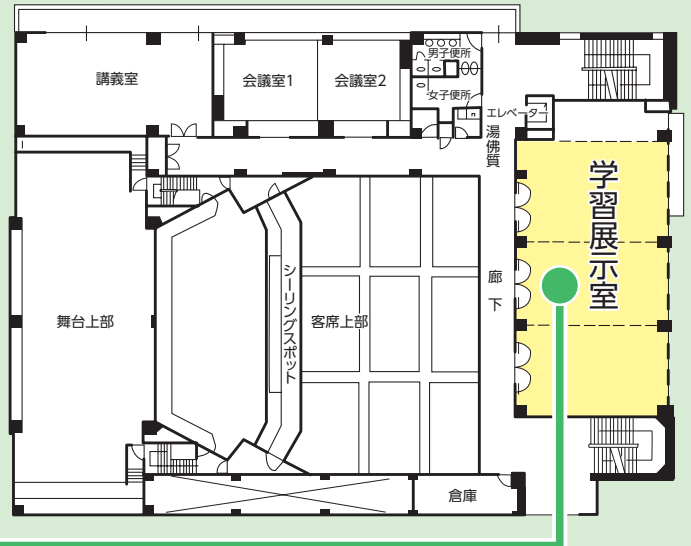
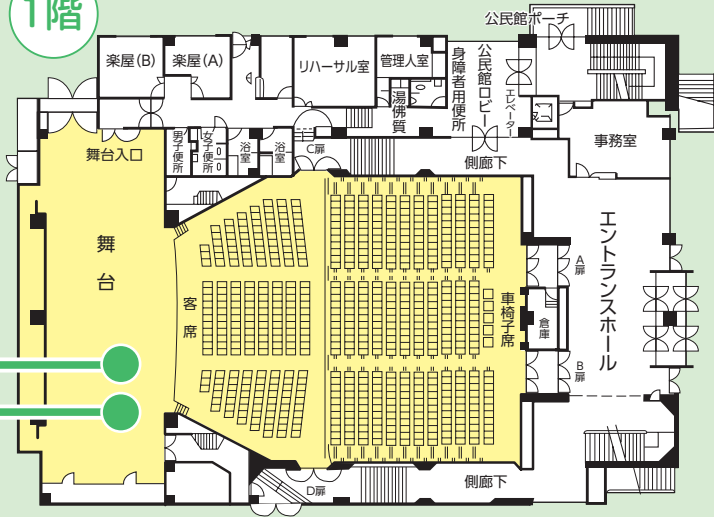
10:00~ 【会場 ◆ 飯田市県文化センター 3階 学習展示室】

三遠南信住民ネットワーク協議会を中心とした地域内住民団体が、意見交換を行います。

飯田市県文化センター ◆ ご案内図

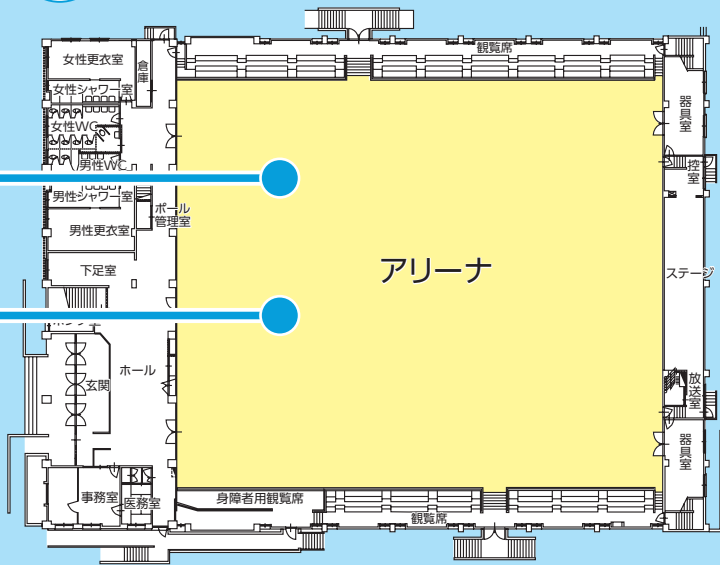
3階

1階

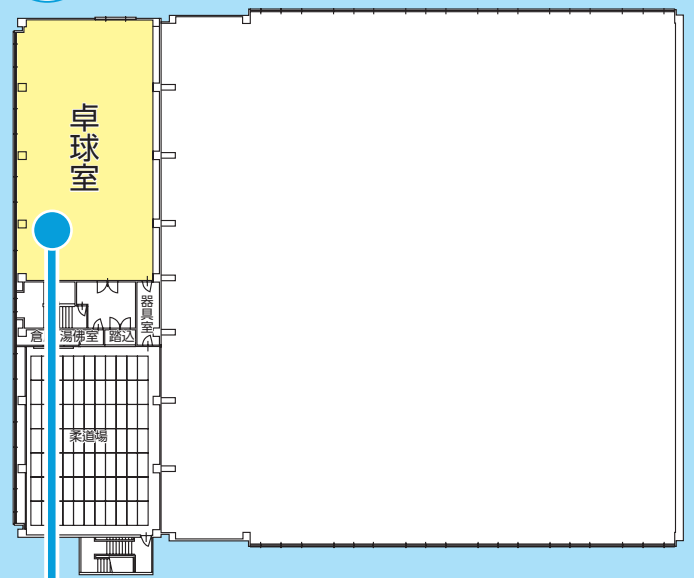


飯田市県体育館 ◆ ご案内図

1階

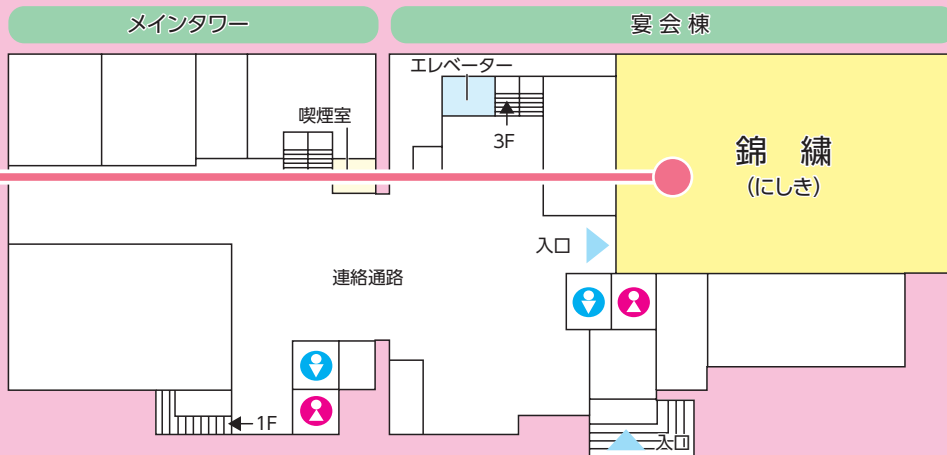


3階



シルクホテル ◆ ご案内図

2階



シャトルバスの運行について

旧南信州・飯田産業センター駐車場～県文化センター間及び県文化センター → シルクホテルへのシャトルバスは以下のとおり運行します。

【旧南信州・飯田産業センター駐車場 → 県文化センター】

運行時間 (1) 12:00～13:00 [随時ピストン運行]

【県文化センター → 旧南信州・飯田産業センター駐車場】

運行時間 (2) 15:00 (全体会終了後) ～ [数便運行(移動人数による)]
(3) 17:35 (連携検討会終了後) ～ [数便運行(移動人数による)]
(4) 18:30 (報告会終了後) ～ 19:00 [随時ピストン運行]

※通常、移動所要時間はおよそ10分となりますが、交通集中等により配車や移動にお時間がかかる場合がございます。お早目のご利用をお願いいたします。

※「県文化センター駐車場」及び「旧南信州・飯田産業センター駐車場」は、19時30分に閉鎖いたします。シルクホテルで開催される交流会に参加される方は、シルクホテルの駐車場へ、ご移動をお願いいたします。

【県文化センター → シルクホテル】

運行時間 (5) 18:30 (報告会終了後) ～ [数便運行(移動人数による)]



パネル展示等(予定)

全体会場周辺で、以下のパネル展示等を予定しています。

・三遠南信地域の
インフラ・ストック効果
(国土交通省 中部地方整備局)

・三遠南信地域の
PRパンフレットコーナー

第27回
三遠南信サミット
2019 in 南信州

資 料 集

目次

全体会

■SENA報告(10分)	5
・資料「新ビジョンの始動とプラットフォームの推進について」	
■パネルディスカッション(60分)	13
・パネルディスカッション登壇者プロフィール	
・パネリスト資料	15
■(参考資料)三遠南信エリアマップ	27

SENA報告

令和元年10月30日



SENA

三遠南信地域連携ビジョン推進会議

I 第2次三遠南信地域連携ビジョン

ビジョンの体系図

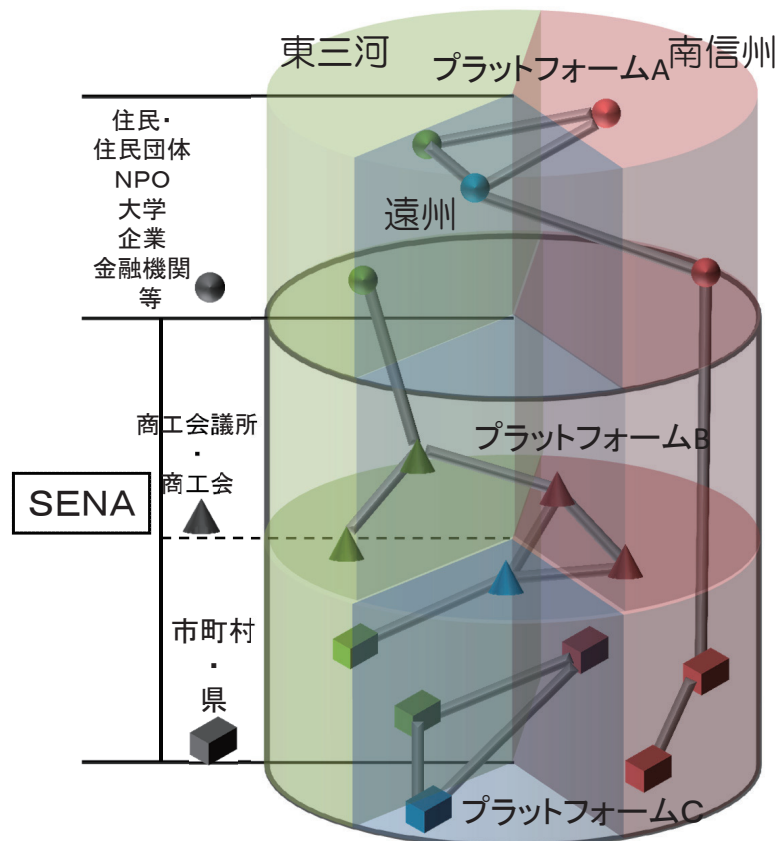
基本方針	推進方針
1 道 中部圏の中核的都市圏となる地域基盤の形成	I 人と物の交流促進 <ul style="list-style-type: none"> ● 交流を促進する道路交通網の整備・活用 ● 交流を促進する鉄道交通網の整備・活用
	II 情報の交流促進 <ul style="list-style-type: none"> ● 情報通信技術の高度化に伴う基盤の整備 ● 県境を越えた情報共有の推進
2 技 革新を取り込む産業創造圏の形成	I 既存産業の活力増進 <ul style="list-style-type: none"> ● 人材・労働力の育成・確保 ● 広域的な産業連携の促進 ● 流域自然資源の広域的な有効利用
	II 産業創造力の強化 <ul style="list-style-type: none"> ● 企業誘致と特徴ある産業クラスターの形成 ● 技術革新に対応した新産業の創出 ● ソーシャルビジネスの育成と起業支援
3 風土 流域文化創造圏の形成	I 多様な地域資源を活かした広域観光の推進 <ul style="list-style-type: none"> ● 広域観光プロモーションの推進 ● 広域観光を推進するネットワークづくり
	II 地域固有の文化財や自然環境の保存と継承 <ul style="list-style-type: none"> ● 文化財の保存・活用 ● 環境保全活動の推進 ● 流域文化の普及と人材の育成・確保
4 住 安全安心な広域生活圏の形成	I 地域住民の安全安心の確保 <ul style="list-style-type: none"> ● 広域的な医療や福祉の連携 ● 広域的な健康づくり事業の推進 ● 広域防災体制の充実
	II 定住推進モデルの形成 <ul style="list-style-type: none"> ● 移住・定住事業の広域連携の推進 ● 未利用施設などの広域的な有効利用
5 人 地域の持続的発展に向けた人材集積地の形成	I 次世代を担う人材の育成・確保 <ul style="list-style-type: none"> ● 地域を担う人材の育成 ● 持続的発展を支える人材の確保 ● 人材交流の促進
	II だれもが輝く地域づくり <ul style="list-style-type: none"> ● 多文化共生の基盤づくり ● 女性や高齢者の社会参画の促進

- 1 三遠南信交通ネットワーク形成プロジェクト**
 - (1) 交通ネットワークの主軸となる主要道路の整備促進や効果的な利用方法の検討
 - (2) リニア中央新幹線と既存交通網との効果的な接続の推進
 - (3) 三遠地域を牽引する道路網の整備の促進
 - (4) 三河港・御前崎港の整備・利用促進
 - (5) リニア中央新幹線開業後の東海道新幹線の利用促進
- 2 三遠南信圏民の一体感醸成プロジェクト**
 - (1) メディアや広報紙、SNSを活用した地域内情報の発信・共有
 - (2) 三遠南信スポーツ交流事業の実施
 - (3) 地域に関する歴史や文化の共有・発信
- 3 地域の稼ぐ力強化プロジェクト**
 - (1) 食農産業クラスターの形成や農林水産物の販路拡大
 - (2) 新技術の利活用や新産業の創出・集積
 - (3) 軽トラビジネスなど地域の特性を活かしたソーシャルビジネスの促進
 - (4) 産業連携の促進
- 4 三遠南信探訪プロジェクト**
 - (1) 道の駅、サービスエリア・パーキングエリア(SA・PA)を活用した地域の観光情報の発信
 - (2) 地域内の食文化を用いた観光振興
 - (3) 自然資源や文化遺産を活用した観光客誘致
 - (4) 鉄道を活用した観光振興
 - (5) サイクルツーリズムの推進
- 5 中山間地域が輝くプロジェクト**
 - (1) 県境地域での観光振興や交流連携事業の推進
 - (2) 地域おこし協力隊等のネットワーク化支援
 - (3) 中山間地域の移動手段確保
 - (4) 中山間地域の森林の保全や森林資源の活用の促進
- 6 住むなら三遠南信プロジェクト**
 - (1) 市町村を越えた防災連携体制の維持・強化
 - (2) 地域連携による婚活事業や移住・定住支援事業の実施
 - (3) 女性や高齢者が暮らしやすく、働きやすい地域づくりの推進
 - (4) 県境を越えた住民交流機会の創出
- 7 人生100年時代プロジェクト**
 - (1) 児童・生徒・学生、社会人の交流機会の創出・拡大
 - (2) 三遠南信に関する地域教育の促進
 - (3) 人材の育成・定着化の推進

プラットフォーム

共通した課題を持つ複数の主体が、理念やビジョンを共有し、新たな価値の創出や課題解決のために、対話や合意形成を経て連携する枠組み

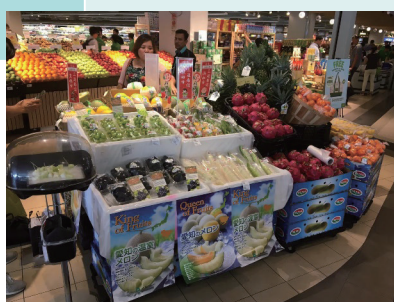
この枠組みを通じて主体間の情報共有や課題の整理・研究、事業の立案や実施などの活動を行う。



プラットフォームによる取組事例

○ 三遠南信連携農産物輸出事業

実施主体	豊橋市・田原市・浜松市・飯田市
基本・推進方針	「技」・ I 既存産業の活力増進
プロジェクト	3 地域の稼ぐ力強化プロジェクト (1) 食農産業クラスターの形成や農林水産物の販路拡大
取組概要	<ul style="list-style-type: none"> ・マレーシアの現地小売店でのプロモーション (10日間×2回 / 年) ・マレーシアからのバイヤー招聘 農産物の生産現場視察等を通じ、当地域農産物への理解成熟を図りながら商談会を実施(1回 / 年)



プラットフォームによる取組事例

○ 三遠南信地域災害時相互応援協定

実施主体	SENA構成市町村
基本・推進方針	「住」・ I 地域住民の安全安心の確保
プロジェクト	6 住むなら三遠南信プロジェクト (1) 市町村を越えた防災連携体制の維持・強化
取組概要	<ul style="list-style-type: none"> ・協定の内容 災害時の救出・救護・応急や職員派遣、資機材・物資の供給 ・平成22年7月16日、飯田市からの給水車派遣要請があり、応援協定に基づき遠州、東三河から給水車を派遣 ・今年度、未締結の市町村すべてが協定締結に同意 →令和元年度中に、協定締結予定



プラットフォームによる取組事例

○浜松市消防ヘリコプターによる航空消防応援協定

実施主体	浜松市消防局、7消防本部
基本・推進方針	「住」・I 地域住民の安全安心の確保
プロジェクト	6 住むなら三遠南信プロジェクト (1) 市町村を越えた防災連携体制の維持・強化
取組概要	<ul style="list-style-type: none"> ・三遠南信地域において浜松市消防ヘリコプターを必要とする災害が発生した際に、浜松市消防ヘリコプターを活用して浜松市が応援 ・平成23年3月豊丘村で発生した林野火災において消火活動を実施 ・未締結であった上伊那広域連合と平成30年7月協定を締結、東三河、南信州全域が対象となる
関係団体等	遠州地域を除く30市町村(遠州地域は静岡県へのヘリで対応)



プラットフォームによる取組事例

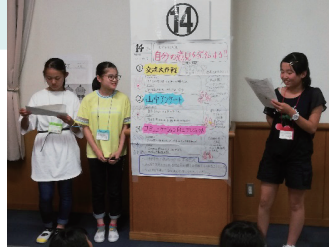
○三遠南信地域新技術・新工法展示商談会

実施主体	浜松商工会議所
基本・推進方針	「技」・I 既存産業の活力増進
プロジェクト	3 地域の稼ぐ力強化プロジェクト (4) 産業連携の促進
取組概要	<ul style="list-style-type: none"> ・三遠南信地域の企業が持つ新技術や新工法を提案・アピールし、異分野メーカーとの取引先開拓、技術的連携等へ繋げるきっかけを作るため、大手メーカー社内にて具体的な取引や協力関係の構築を目指した展示商談会を開催 平成26年 株式会社本田技術研究所 四輪R&Dセンター 平成28年 トヨタ自動車株式会社 平成29年 コマツ小山工場 平成30年 株式会社IHI 令和元年 ナブテスコ株式会社
関係団体等	(公財)浜松地域イノベーション推進機構、豊橋商工会議所、(公財)南信州・飯田産業センター

プラットフォームによる取組事例

○三遠南信中学生交流事業

実施主体	豊橋市教育委員会、浜松市教育委員会、飯田市教育委員会
基本・推進方針	「人」・Ⅰ 次世代を担う人材の育成・確保
プロジェクト	7 人生100年時代プロジェクト (1) 児童・生徒・学生、社会人の交流機会の創出・拡大
取組概要	<ul style="list-style-type: none"> ・平成11年度から実施 ・教育交流を通して、自分のまちや学校の良さを見直す機会を提供すると共に、子どもたちのまちづくりに対する意識を深め、地域間連携の中核となって活躍する人材を育成するため、3市の中学生の交流会を開催



プラットフォームによる取組事例

○三遠南信ふるさと歌舞伎交流大会

実施主体	三遠南信ふるさと歌舞伎交流実行委員会
基本・推進方針	「風土」・Ⅱ 地域固有の文化財や自然環境の保存と継承
プロジェクト	2 三遠南信圏民の一体感醸成プロジェクト (3) 地域に関する歴史や文化の共有・発信
取組概要	<ul style="list-style-type: none"> ・民俗文化財に対する関心を高め保存継承の意識高揚を図るとともに、保存会間の交流を深め、相互協力や情報交換を通じ技術向上と保存会組織の運営強化を図る ・三遠南信地域における民俗芸能の代表格である地芝居(素人歌舞伎)の保存会が一堂に会し上演 ・3地域のそれぞれの保存会が、平成6年から持ち回りで毎年開催
関係団体等	大鹿歌舞伎保存会、下條歌舞伎保存会、豊橋素人歌舞伎保存会、田峰観世音奉納歌舞伎谷高座、湖西歌舞伎保存会、浦川歌舞伎保存会、雄踏歌舞伎保存会「万人講」



プラットフォームによる取組事例

○軽トラビジネス推進事業

実施主体	三遠南信軽トラ市ネットワーク
基本・推進方針	「技」・Ⅱ 産業創造力の強化
プロジェクト	3 地域の稼ぐ力強化プロジェクト (3) 軽トラビジネスなど地域の特長を活かしたソーシャルビジネスの促進
取組概要	<ul style="list-style-type: none"> ・三遠南信地域内で開催されている軽トラ市のネットワーク化を目指し、平成30年に発足 ・軽トラ市の開催に関する意見交換、軽トラ市の開催状況に関する全国調査、三遠南信軽トラ市MAPの作成 ・11月4日東京モーターショーでの軽トラ市に出店予定 ・12月7・8日掛川市で開催される「全国軽トラ市」に出店予定
関係団体等	愛知大学三遠南信地域連携研究センター しんしろ軽トラ市のんほいルロト みんなで軽トラ市 いわた☆駅前楽市(磐田商工会議所) 掛川けつトラ市(掛川市中心市街地活性化推進室) SENA ※同ネットワーク構成団体



プラットフォームによる取組事例

○三遠南信地域連携マラソン大会スタンプラリー(新)

実施主体	愛知県東三河総局、愛知県新城設楽振興事務所、長野県南信州地域振興局、静岡県西部地域局
基本・推進方針	「風土」・Ⅰ 多様な地域資源を活かした広域観光の推進
プロジェクト	2 三遠南信圏民の一体感醸成プロジェクト (2) 三遠南信スポーツ交流事業の実施
取組概要	<ul style="list-style-type: none"> ・広域連携の展開に向けて、共通課題となるテーマについて意見交換を行う「三県域所長情報交換会」を通じた取組 ・人口交流の一層の拡大を図ることを目的とし、県境を越えた観光交流事業の一環として開催 ・3か所以上の三遠南信地域の対象マラソン大会(16大会)に参加(出走、ボランティア、応援)した方から抽選で三遠南信地域の特産品をプレゼント
関係団体等	愛知県、長野県、静岡県



Ⅱ 第27回三遠南信サミット2019 in 南信州

今日のサミットについて

新たなビジョンの始動 ～将来に向けて今すべきこと

<p>13:00～15:00</p> <p>全体会</p>	<p>会場 ◆ 飯田市鼎文化センター ホール</p> <p>パネルディスカッション 司会／西村容子</p> <p>テーマ ◆ 三遠南信地域とスーパー・メガリージョン構想 コーディネーター ◆ 三遠南信地域連携ビジョン推進会議 副会長（飯田市長）／ 牧野光朗 パネリスト ◆ 国土審議会会長・公益財団法人名古屋まちづくり公社上席顧問・名古屋都市センター長／ 奥野信宏 ◆ 公益財団法人浜松・浜名湖ツーリズムビューロー 理事・事業本部長／ 前田 忍 ◆ 三遠南信地域連携ビジョン推進会議 会長（浜松市長）／ 鈴木康友 ◆ 三遠南信地域連携ビジョン推進会議 副会長（豊橋商工会議所会頭）／ 神野吾郎 <small>（敬称略・順不同）</small></p>
<p>15:15～17:35</p> <p>「住」(防災)を 主題とした 連携検討会</p>	<p>プロジェクションマッピング等を利用した情報共有 今後30年間に発生する確率が70～80%と言われている南海トラフ地震の発生による三遠南信地域の被害想定等について、名古屋大学減災連携研究センター長 福和伸夫教授の解説により、巨大地図とプロジェクションマッピングを使用して情報共有を行う。</p> <p>各検討グループにおいて議論</p> <p>「道」グループ 会場 ◆ 飯田市鼎体育館アリーナ テーマ ◆ 「道路などの社会基盤への被害とその備え」に向けて コーディネーター ◆ 国立大学法人 名古屋大学</p> <p>「住」グループ 会場 ◆ 飯田市鼎体育館アリーナ テーマ ◆ 「地域住民の安全安心の確保」に向けて コーディネーター ◆ 国立大学法人 名古屋大学</p> <p>「技」グループ 会場 ◆ 飯田市鼎文化センター 3階 学習展示室 テーマ ◆ 「災害時における産業活動の継続及び地域連携」に向けて コーディネーター ◆ 学校法人 愛知大学 教授／ 戸田敏行</p> <p>「風土・人」グループ 会場 ◆ 飯田市鼎体育館 3階 卓球室 テーマ ◆ 「災害に強い地域づくり、地域活動」に向けて コーディネーター ◆ 学校法人 法政大学 教授／ 高柳俊男</p>
<p>18:00～18:30</p> <p>報告会</p>	<p>会場 ◆ 飯田市鼎文化センター ホール</p> <p>各検討グループの報告、サミット宣言</p>
<p>19:15～20:30</p> <p>交流会</p>	<p>会場 ◆ シルクホテル 2階 錦繡</p> <p>参加費 6,000円／人</p>

全体会

パネルディスカッション
「三遠南信地域とスーパー・メガリージョン構想」

<登壇者プロフィール>

牧野 光朗

飯田市長（SENA 副会長）

早稲田大学政治経済学部卒業後、日本開発銀行（現日本政策投資銀行）入行。同フランクフルト首席駐在員、大分事務所長を経て、2004 年飯田市長就任、四期目。現在、南信州広域連合長、長野県市長会副会長、全国市長会経済委員長、2015 年より経済財政諮問会議の専門調査会である経済・財政一体改革推進委員会委員。

パネリスト

奥野 信宏

国土審議会会長・公益財団法人名古屋まちづくり公社上席顧問・名古屋都市センター長

京都大学大学院農学研究科修士課程修了。経済学博士。名古屋大学経済学部教授、経済学部長、副総長などを経て、2004 年中京大学に勤務。商学部長、総合政策学部長、学校法人梅村学園理事・学術顧問などを歴任。2017 年から現職。国土交通省のスーパー・メガリージョン構想検討会顧問、内閣官房ナショナル・レジリエンス（防災・減災）懇談会委員 等。

前田 忍

公益財団法人 浜松・浜名湖ツーリズムビューロー 理事・事業本部長

1996 年北里大学卒業後、製薬企業や流通小売業、通販企業を経験。その間に名古屋商科大学経営大学院経営学修士課程（MBA）修了。その後、食のテーマパークの立ち上げを行なったのちに北海道のホテル及び静岡県島田市の大井川鐵道の事業再生を代表取締役として陣頭指揮を執る。2018 年 4 月より浜松市と湖西市の地域連携 DMO の理事・事業本部長に就任。岐阜県出身。

神野 吾郎

豊橋商工会議所会頭（SENA 副会長）

1983 年慶應義塾大学商学部を卒業後、三井信託銀行株式会社を経て、1990 年中部ガス株式会社に入社。2002 年 5 月株式会社サーラコーポレーション設立と同時に代表取締役社長に就任。2018 年 2 月より中部ガス株式会社及びガステックサービス株式会社の代表取締役会長を兼務。2016 年 11 月より豊橋商工会議所会頭、東三河広域経済連合会会長、2019 年 6 月より一般社団法人中部経済連合会副会長。

鈴木 康友

SENA 会長（浜松市長）

1980 年慶應義塾大学法学部を卒業後、松下政経塾に入塾（第 1 期生）し 1985 年に同塾卒業。ステラプランニング代表取締役を経て、2000 年に衆議院議員に初当選（2 期）。この間、経済産業委員会理事等を歴任。2007 年 5 月浜松市長に就任（現在 4 期目）し、2008 年マニフェスト大賞受賞。現在 4 期目。三遠南信地域連携ビジョン推進会議（SENA）会長、2011 年 12 月から指定都市市長会副会長。

全体会

パネルディスカッション

「三遠南信地域とスーパー・メガリージョン構想」

<パネリスト資料>

スーパー・メガリージョン構想について

国土審議会会長・公益財団法人名古屋まちづくり
公社上席顧問・名古屋都市センター長 奥野 信宏

スーパー・メガリージョン構想

○リニア中央新幹線の開業を見据えた2050年の姿

- ・人口減少・高齢化の社会で持続的な発展を目指す
- ・全線開業後には人口7000万人に上る巨大な広域都市圏の誕生

○我が国の成長センターをつくる

- ・3大都市圏とリニア沿線都市が一体となって列島の成長を牽引
- ・移動の高速性で3大都市圏に分散した諸機能を一体化
- ・集積の利益を追求し、経済の成長を図る

○第2次国土形成計画で国家プロジェクトの位置づけ

- ・「骨太の方針2019」に「対流の促進」とともに記載

4つの目標

目標① 「日本の成長を担う」

- 東京・名古屋・大阪と沿線圏域が一体となって日本の成長を牽引
 - ・東京一極集中による成長からの決別
- 高度成長期の成長過程
 - ・4大工業地帯(京浜・中京・阪神・北九州)が成長のセンター
- 安定成長期以降
 - ・二眼レフ論 → 東京一極集中
- 東京一極集中の限界と打破
 - ・東京の役割の重要性
 - ・東京への過度の集中は国家リスク

目標② 「成長の成果を全国に波及させる」

- 高度成長期の成長過程
 - ・4大工業地帯の成果を全国に波及させるという強い意思
 - ・「国土の均衡ある発展」
 - ・先進国で最も地域格差の小さい国が実現
- 広域地方圏を単位とした「自立・分散・協調の国土」
 - ・全国の広域地方圏の発展が基本(国土形成計画(平成20年))
 - ・国の成長には成長のセンターが必要
- スーパーハブの整備がカギ
 - ・品川、名古屋、新大阪のスーパーハブの整備

目標③「圏域全体で人口増加の極になる」

○リニア中間駅と沿線圏域への新たな期待

- ・大都市圏人口の分散居住等、新たな住まい方の提案
- ・リモートオフィス、職場の分散配置

○沿線全域で出生人口の増加に貢献

- ・圏域の相対的に高い出生率
- ・減少する人口を各地で取り合い、百年の計にならない
- ・東京都区部・名古屋市・大阪市の出生率の大幅な増加を目指すべき

目標④「大規模自然災害に対する列島の強靱化を促す」

○東京を大規模自然災害が襲うと国家リスクに直結

- ・圏域全体で政府・行政機能、経済の中核機能、文化学術のバックアップ機能を強化、あるいはこれらの機能を圏域に分散

○「社会経済活動を停滞させないレジリエンスの確保」

- ・東海道の人流・物流のリダンダンシーの強化
- ・4層の鉄道網と4層の道路網
- ・名古屋駅周辺に集中する鉄道網の強靱化が重要

飯田市および沿線圏域への期待

○相模原市、甲府市、飯田市、中津川市、亀山市、奈良市付近

○住民の生活スタイルの変化

- ・大都市圏との関係が日常生活の中に入ってくる
- ・大都市圏との連携による多様な可能性
- ・近隣の大都市圏への通勤、週末の二地域居住、移住
- ・自然に囲まれたリモートオフィスや工場の立地

○政府・企業・大学・研究機関等のバックアップ機能・分散配置

○飯田市は信州と遠州の新たな玄関口

- ・中央日本の観光の玄関口
 - ・リニア駅と高速道路の結節
-

三遠南信地域の観光資源と 訪日外国人の来訪状況

浜松・浜名湖ツーリズムビューロー
理事・事業本部長 前田 忍

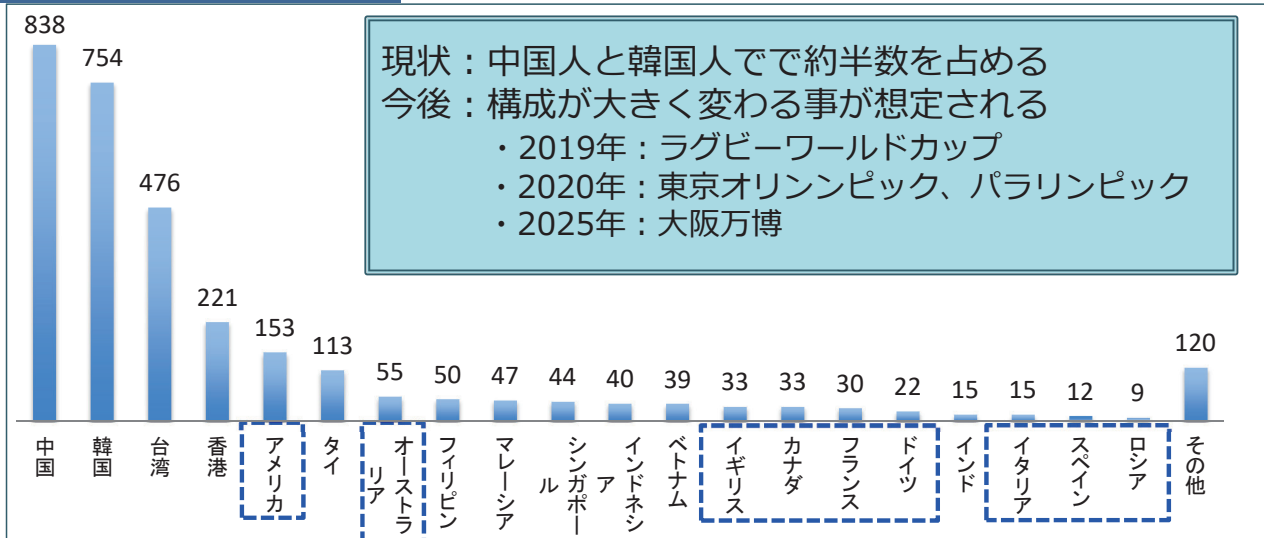


訪日外国人全体

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	前年 伸び率
観光客数 (万人)	622	836	1,036	1,341	1,974	2,404	2,869	3,119	121.8%
旅行消費額 (億円)	8,135	10,846	14,167	20,278	34,771	37,476	44,161	45,189	107.8%

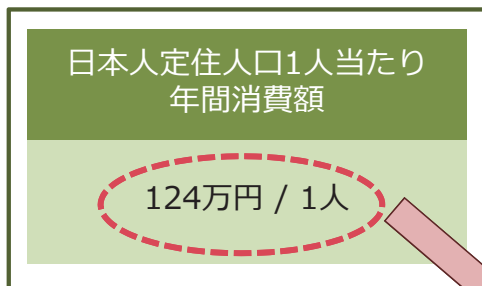
2018年の国別訪日人数

単位：万人

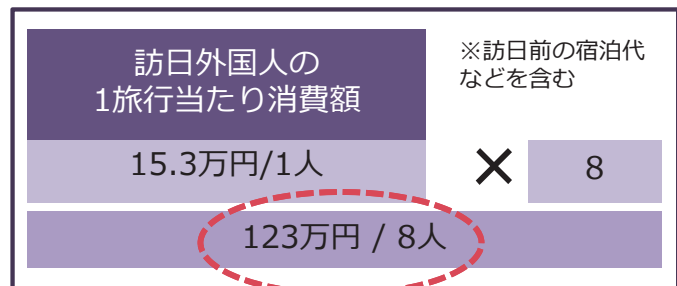


出典：JNTO（日本政府観光局）

インバウンドの経済効果

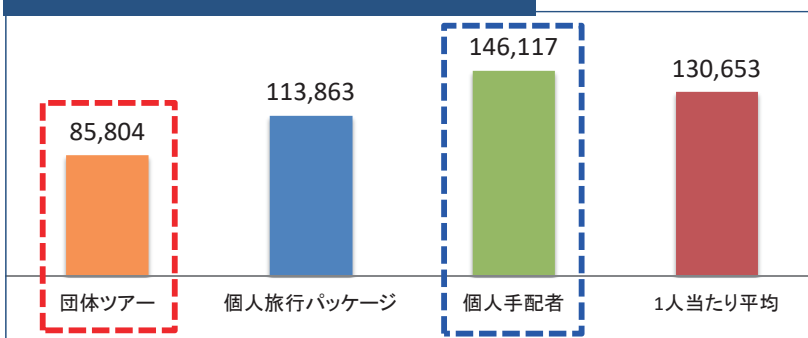


※出典：2016年総務省家計調査



日本人1名減を8人の外国人観光客でカバー

旅行手配別の日本滞在中の支出額



個人手配者は団体ツアーの
1.7倍の支出

個人手配者 (FIT) の
経済貢献が高い

出典：観光庁 平成29年年次報告書

観光庁が定める今後の外国人観光客の目標値

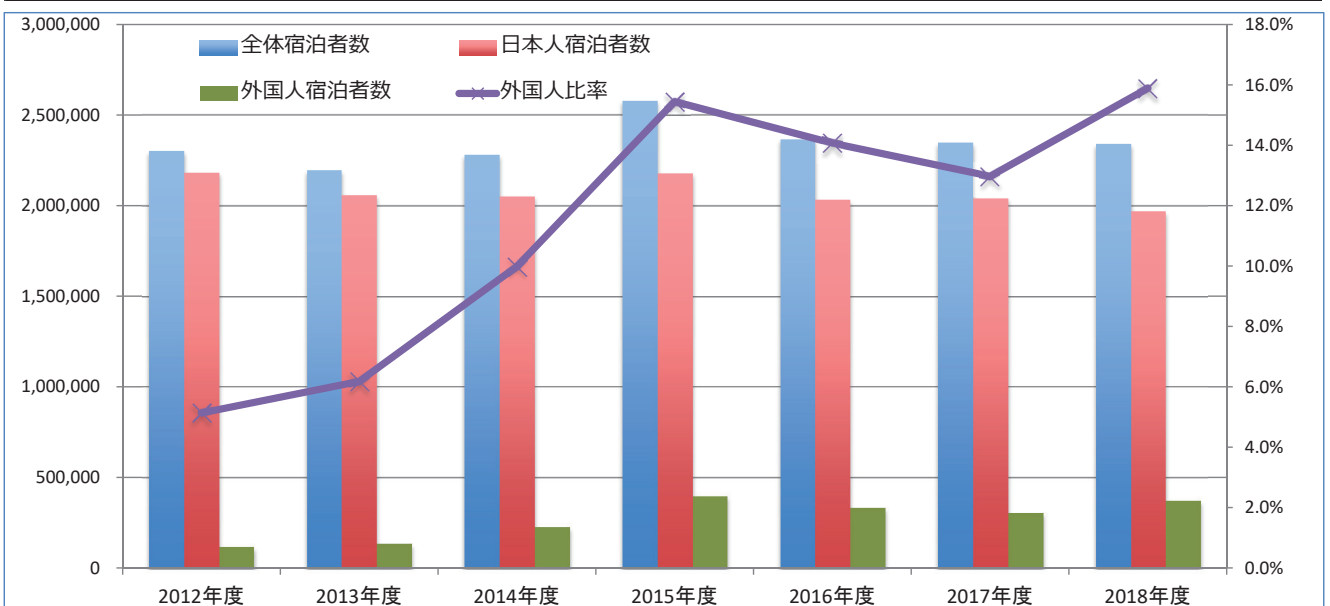
訪日外国人旅行者数	2020年： 4,000万人 (2015年の約2倍)	2030年： 6,000万人 (2015年の約3倍)
訪日外国人旅行消費額	2020年： 8兆円 (2015年の2倍超)	2030年： 15兆円 (2015年の4倍超)
地方部での外国人延べ宿泊者数	2020年： 7,000万人泊 (2015年の3倍弱)	2030年： 1億3,000万人泊 (2015年の5倍超)
外国人リピーター数	2020年： 2,400万人 (2015年の約2倍)	2030年： 3,600万人 (2015年の約3倍)
日本人国内旅行消費額	2020年： 21兆円 (最近5年間の平均から約5%増)	2030年： 22兆円 (最近5年間の平均から約10%増)

外国人の1人あたり消費額を30%以上伸ばす必要がある

出典：観光庁

浜松市の外国人宿泊者数

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	前年比
全体宿泊者数	2,303,845	2,197,762	2,281,448	2,580,294	2,367,766	2,348,217	2,342,703	99.8%
日本人宿泊者数	2,185,566	2,061,979	2,053,598	2,181,701	2,034,640	2,043,514	1,970,565	96.4%
外国人宿泊者数	118,279	135,783	227,850	398,593	333,126	304,703	372,138	122.1%
外国人比率	5.1%	6.2%	10.0%	15.4%	14.1%	13.0%	15.9%	2.9%



浜松市の外国人宿泊者数

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	前年比		構成比
中国	325,900	269,262	223,905	281,737	125.8%	中国	75.7%
台湾	8,240	8,753	12,563	12,953	103.1%	台湾	3.5%
アメリカ	-	-	5,940	10,674	179.7%	アメリカ	2.9%
イタリア	-	-	8,192	10,107	123.4%	イタリア	2.7%
インド	-	-	5,714	6,532	114.3%	インド	1.8%
マレーシア	8,641	6,982	6,908	6,470	93.7%	マレーシア	1.7%
韓国	3,507	2,547	4,271	4,376	102.5%	韓国	1.2%
インドネシア	6,389	5,344	3,886	3,923	101.0%	インドネシア	1.1%
ベトナム	4,840	3,510	3,667	3,867	105.5%	ベトナム	1.0%
香港	2,778	2,284	3,723	3,468	93.2%	香港	0.9%
タイ	3,446	2,648	2,983	3,064	102.7%	タイ	0.8%
シンガポール	1,581	1,795	1,447	1,983	137.0%	シンガポール	0.5%
その他	33,271	30,001	21,504	22,984	106.9%	その他	6.2%
合計	398,593	333,126	304,703	372,138	122.1%	合計	100.0%

※2012年79、2013、14年は75、2015、16年は91、2017年80、2018年112施設

2015年からの推移

- ・中国の爆買いブームが落ち着く
- ・富士山静岡空港の中国路線が約半分に縮小
- ・中国のゴールデンルートのツアーも縮小

傾向

- ・2018年は2015年に次ぎ実績伸長
- ・中国人が多くを占める傾向は変わらず
- ・イタリアやアメリカなど欧米人が伸長

三遠南信地域の観光資源

【感動体験南信州】
心温まるほんもの体験

<コンテンツ>

- ・農業、農家体験
- ・食育
- ・アウトドアアクティビティ

【ほの国】
海・山・川の豊かな実り

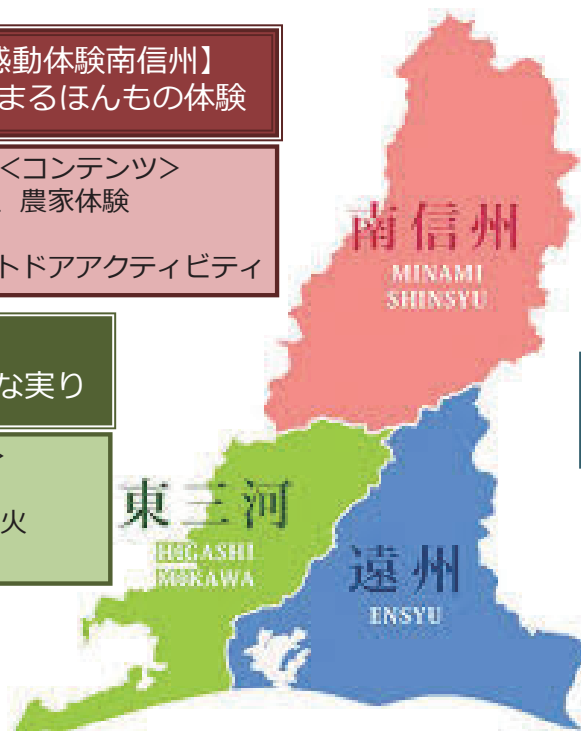
<コンテンツ>

- ・伝統の食文化
- ・歴史文化 ・手筒花火
- ・マリンスポーツ

【浜名湖観光圏】
浜名湖からはじまる新たな物語

<コンテンツ>

- ・浜松パワーフード
- ・サイクリング ・マリンスポーツ
- ・産業観光（音楽・車・花・繊維）



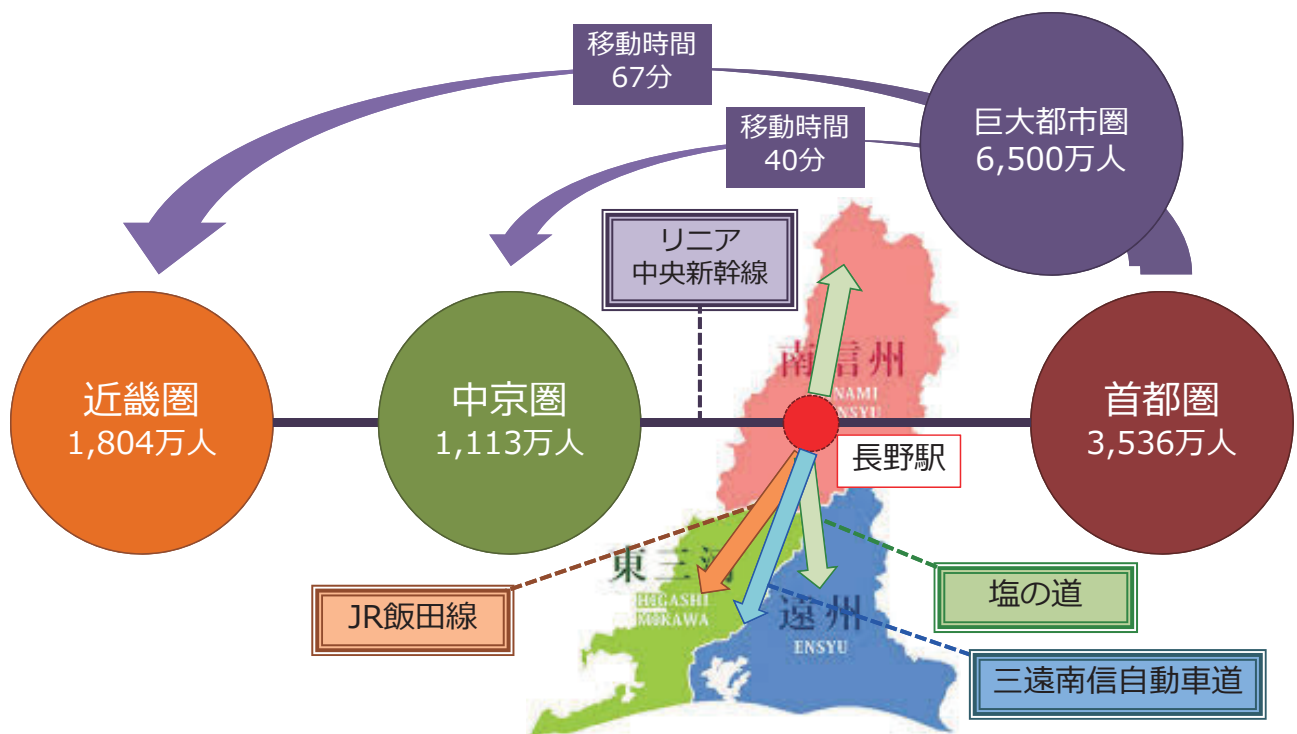
各ブランドを三遠南信ブランドとして国内外へ発信し誘客する

新ビジョンの基本方針3「風土」の観点と スーパー・メガリージョン構想との関係及び 広域観光連携の可能性

浜松・浜名湖ツーリズムビューロー
理事・事業本部長 前田 忍



スーパーメガリージョン構想



長野駅を起点に「通過型地域」から「滞在型地域」へ転換

コト消費の重要性

1. 各地域には必ず「モノ」と「コト」の消費がある
2. 「コト」は現地に行かないと体感できない
3. 「コト」の魅力が無いとお客様は来てくれない

地域固有の物語を「磨き上げ」「ほんもの」にする

地域全体（面）での取り組みが重要

南信州のコト消費

地域住民とつくる「ほんもの体験」で感動を提供

地域の思い

✓ 観光資源が乏しい通過型観光地

✓ 体験型観光には地域住民と観光客が一緒に体験することが重要

✓ 南信州の生活や産業を観光に活かしたい

✓ 体験観光のノウハウを求める視察や研修を増加させたい

解決策

➤ 体験型商品を企画する専門組織を設置
【株式会社南信州観光公社の設立】

➤ 地域住民がインストラクターや案内人として受け入れる
【ほんもの体験】

➤ 地域住民との接点から多様な体験プログラムを生み出す
【感動体験南信州】

➤ 「視察・研修」をプログラム化
【視察研修の積極的な受入】

浜名湖観光圏の事業例

1. 体験型コンテンツの企画・PR	欧米豪向け商品開発、メディアミックス
2. 地域への意識醸成	キャッシュレス推進、通訳ガイド育成
3. 地域のサービスの品質向上	おもてなし規格認証、サクラクオリティ
4. 旅ナカの情報発信の整備	QRコード情報発信（多言語）
5. 広域周遊施策	手ぶら観光、公共交通周遊パスポート

滞在型地域の整備

今やる事 既存施設の整備と商品開発

観光のハブづくり	体験プログラム開発、観光人材育成
移動手段の観光化	JR飯田線の観光活用、塩の道サイクリング
滞在施設の整備	空き家、古民家を活用した民泊・農泊の推進

今後やる事 交通の整備と情報管理

交通の結節点づくり	リニア長野駅とJR飯田線の交通拠点の整備
2次交通網の整備	公共交通の広域周遊きっぷ（電車、バス、タクシー）
情報発信の基盤整備	地域内と地域外への戦略的な情報発信

「観光地域づくり」をミッションとするDMO

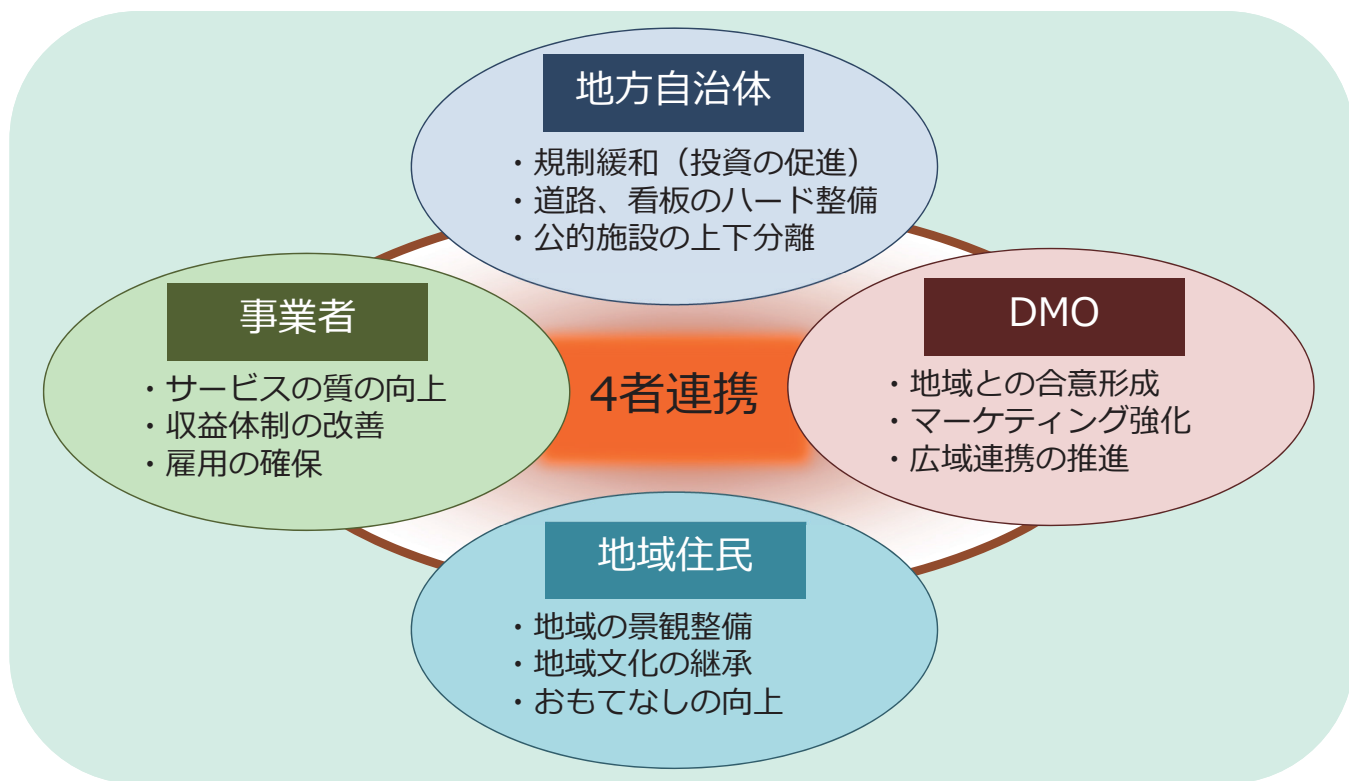
DMOとは 観光地域づくりの戦略策定と実行を通じ「地域の稼ぐ力」を引き出す法人

三遠南信エリアのDMO（7法人）

広域連携DMO	<ul style="list-style-type: none"> 中央日本総合観光機構（長野県・愛知県・静岡県・富山県・福井県 石川県・岐阜県・三重県・滋賀県）
地域連携DMO	<ul style="list-style-type: none"> 長野県観光機構（長野県） 南信州観光公社（飯田市など14市町村） 静岡県観光協会（静岡県） 浜松・浜名湖ツーリズムビューロー（浜松市・湖西市） 奥三河観光協議会（新城市・設楽町・東栄町・豊根村）
地域DMO	<ul style="list-style-type: none"> 阿智昼神観光局（阿智村）

DMOが広域観光連携の主体者となる

観光振興の役割



<三遠南信エリアマップ>



第27回 三遠南信サミット 2019 in 南信州 資料集

令和元年10月30日(水)

三遠南信地域連携ビジョン推進会議 (SENA)
